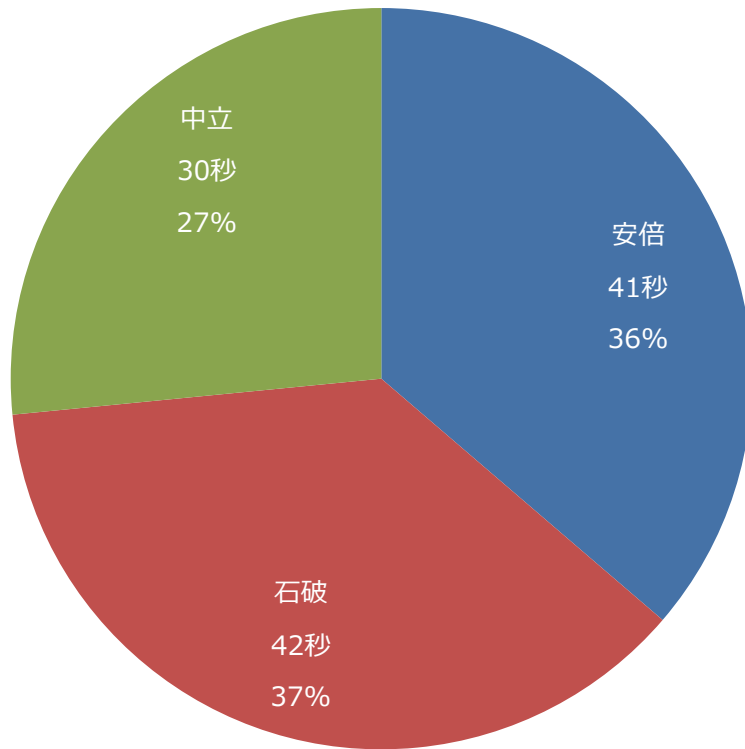
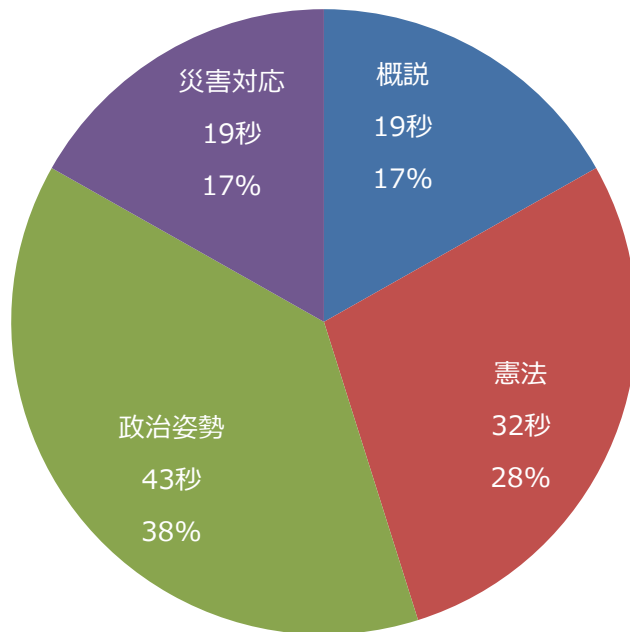


TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2018年9月15日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子		
検証テーマ：オープニング、自民党総裁選、安倍総理らを警護する和歌山県警巡査が実弾入りの拳銃を落とす イギリス EU 離脱について、オスプレイ、【特集】北海道全域のブラックアウト		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・賑わいの戻る被災地北海道</li> <li>・自民党総裁選</li> <li>・安倍総理らを警護する和歌山県警巡査が実弾入りの拳銃を落とす</li> <li>・北海道森町の国道 5 号線でトレーラーと乗用車が正面衝突し 3 人死亡</li> <li>・岡山県美作市中国自動車道下りで自損の車に後続車が衝突し子ども 2 人死亡</li> <li>・関空への鉄道 18 日に再開</li> <li>・台風 22 合がフィリピンのルソン島を横断</li> <li>・「岸和田だんじり祭」始まる</li> <li>・岡山県総社市で豪雨被災者が木造仮設住宅に入居</li> <li>・イギリス EU 離脱について</li> <li>・オスプレイ</li> <li>・先月のタクシー強盗事件の容疑者が別件の関与も認める</li> <li>・東京ドームシティ地下一階で作業員 7 人が体調不良を訴える、原因は一酸化炭素中毒化</li> <li>・【特集】北海道全域のブラックアウト</li> <li>・【特集】盲聾児教育、苦悩と喜び</li> <li>・スポーツ報道</li> </ul>		
<p>放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープニング：結論→放送法上は問題なし 番組のオープニングで金平キャスターが「防衛省の概算要求によればミサイル防衛システム、イージス・アショア 2 基の購入には 2352 億円かかるそうです、国民の税金です、それだけのお金があれば地震に見舞われた北海道や台風被害の関西の復興復旧がどれだけ進むのでしょうか、北海道の地震、その後は特集でお伝えします。」とコメントしていた。このコメントに当てられた時間は 21 秒で、放送法上、直ちに問題であるとは言えないものの気になる点があったので、所感にて言及する。</li> <li>・自民党総裁選：結論→放送法の観点から高く評価 今日から自民党総裁選の地方四箇所での演説会が始まったこと、最初は京都で行われたこと、安倍総理と石破元幹事長の主張が取り上げられた。安倍総理の主張を取り上げた箇所、石破元幹事長の主張を取り上げた箇所、そのどちらでもなく中立的な説明がなされた箇所の 3 つに大別された。このトピックに当てられた時間は 113 秒で、それぞれの場面の時間配分及び比率は以下の通りであった。</li> </ul>		



また論点別では憲法、政治姿勢、災害対応の3つが論点として取り上げられた。これら3つの論点と、そのどれでもない概説的な場面の4場面の時間配分及び比率は以下の通りであった。



憲法については安倍総理の「憲法にしっかりと日本の平和と独立を守る自衛隊を明記して私達の責任を果たして行こうではありませんか。」という発言と石破元幹事長の「自衛隊を憲法に書いたらすべて解決するんですか、必要最小限度だから戦力ではない、そう言って分かる人が誰かいますか。」という発言が取り上げられていた。

政治姿勢については石破茂元幹事長の「官邸も、そして国会も、そして政府も、すべてが国民のために、ただ

国民のために働く、そういう政府を石破茂は実現をしてみたい。」という発言と安倍総理の「ああしておけば、もっと国民の皆様からご理解を頂けたのではないかと、そう自らに問いかけなかった日は一日たりともありませんでした、まあたしかに私は至らない人間であります。」という発言が取り上げられていた。

災害対応についてはナレーションによって「また災害対応では、安倍総理が防災、減災のための緊急対策を三年で集中して講じるとしたのに対し、石破氏は災害列島には防災専門の役所が必要、と防災省の設置を改めて主張しました。」と両候補の主張する政策が紹介されていた。

両候補の主張を取り上げた時間配分については公平であり、今回の放送に限って言えば放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」という点から高く評価できる。ただし、このテーマについては他の放送日と総合しての評価も別途必要であると考えられる。

・安倍総理らを警護する和歌山県警巡査が実弾入りの拳銃を落とす：結論→問題なし

和歌山市で安倍総理らの警備にあたっていた和歌山県警の巡査が実弾入りの拳銃を路上に落とし、住民が見つけたこと、回収されていたことがわかったと報じられた。なお、拳銃と実弾はそのままの状態で見つかったということも合わせて伝えられた。このトピックに当てられた時間は 62 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・イギリス EU 離脱：結論→特に問題なし

イギリスでファッションの祭典ロンドンファッションウィークが開かれたが今年後半に迫った EU 離脱が影を落としていること、モデルの三割は EU から来ているほか多くのデザイナーは他の EU 諸国からのスタッフを抱えていたり EU 諸国の縫製工場があったりすること、半年後に迫った EU 離脱のあとに人や物の移動が制限されかねないため関係者の中には倉庫などの機能をイギリスから他の EU 加盟国に移すことを検討しているところもあるということ、関係者らは政府に対し EU 離脱が足を引っ張ることにならないよう働きかけを強めていることが伝えられたほか、イギリスファッション協会の最高責任者キャロライン・ラッシュ氏の「政府や離脱に賛成票を投じた人たちの予測とは正反対のことが起きています。その分イギリスから雇用が消えるわけですから。」というコメントが取り上げられていた。

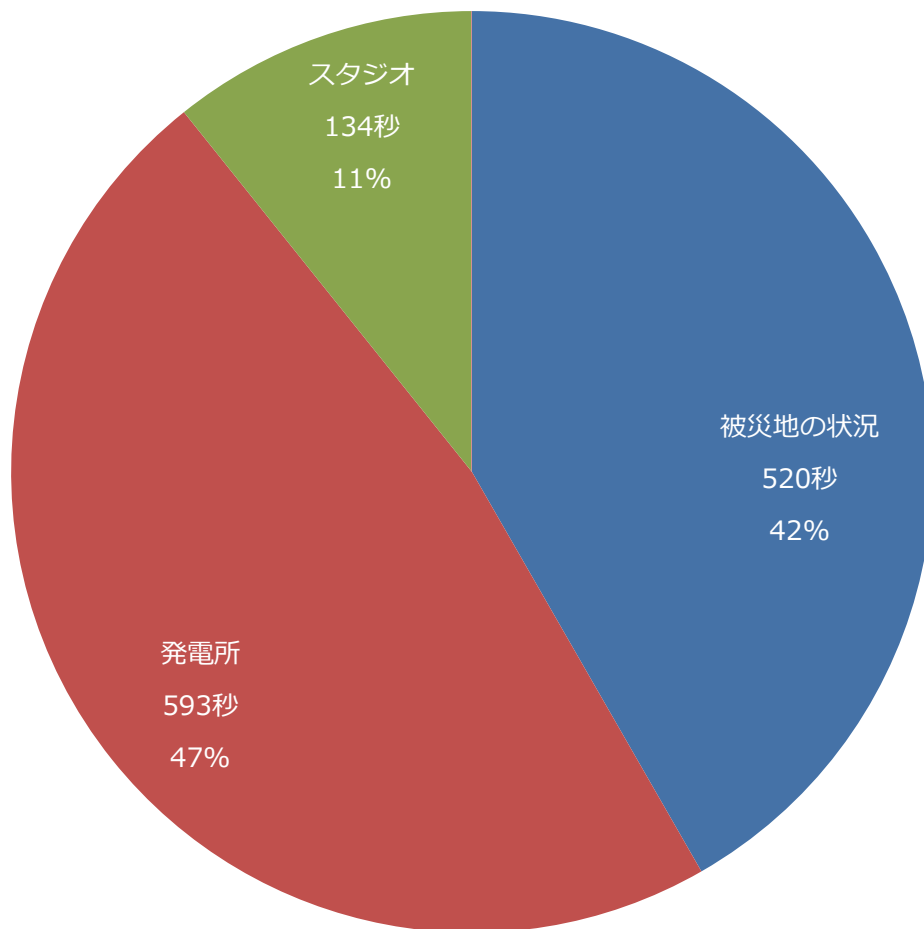
このトピックに当てられた時間は 72 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・オスプレイ：結論→特に問題なし

在日アメリカ軍の横田基地が一般公開され来月から正式配備される輸送機 CV-22 オスプレイの展示飛行が行われたこと、オスプレイを巡っては一昨年 12 月に海兵隊の MV-22 が沖縄県名護市の沿岸で大破するなど事故やトラブルも相次いでいると報じられた。このトピックに当てられた時間は 58 秒で、放送法の観点からは特に問題は見られなかった。

・【特集】北海道全域のブラックアウト：結論→特に問題なし

北海道地震とそれによって発生した北海道全域でのブラックアウトについて特集で取り上げられていた。この特集では被災地の状況とりわけ人々の暮らしに焦点を当てたシーン、発電電インフラに焦点を当てたシーン、スタジオでのやり取り、という 3 つの場面に大別された。この特集に当てられた時間は 1247 秒で、これらの場面についての時間配分及び比率は以下の通りであった。



被災地の状況では電気や水が止まったことで打撃を受けた牧場の様子や、断水に悩まされる焼き鳥屋、断水のため授業が再開しない小学校、土砂崩れの現場の様子、乾電池の販売に数量制限を行う家電量販店などが取り上げられた。

発電所については東京電機大学の加藤政一教授（電力システム工学）や北海道大学の黒川一哉名誉教授への以下に朱記したインタビューが取り上げられていた。

【インタビュー、加藤政一教授】

ナレ「ブラックアウトは防げなかったのか？電力の供給システムに詳しい加藤政一教授はこう指摘する。」

加藤教授「一番大きな理由はよく言われるように苫東厚真が半分近くの電力を供給していたとそれが全部止まってしまったということを言われてるわけなんですけども、それ自体は別にですね、まあ問題とすべきではないと思うんですね。むしろそうするのであれば、その1箇所に集中した電源がすべて止まった時にブラックアウトをしないような対策をですね講じておくべきだったんじゃないかな。」

ナレ「地震当時、北海道の電力需要漁はおよそ310万キロワット。その半分以上の165万kwを賄っていたのが、震源地近くにある苫東厚真火力発電所だった。」

膳場「一極集中せざるを得なかったんでしょうか？ほかにこう分散しようがなかったんでしょうか？」

加藤教授「ええ、あの一やはりですね、電力会社としてはあの一発電コストを抑えたいと、そうすると効率のい

い、あるいは燃料費の安い火力発電所を運転したいというニーズがあるわけですね。そういったニーズからすると、この苫東厚真っていうのは一番こう安い発電所だったわけです。」

ナレ「稼働していたのは1号機、2号機、4号機の3機だ。地震でそのすべてが止まった。」

加藤教授「今回のような事故を想定しているのであれば、例えば1台は止めて別の発電所ですね、発電するという方法もあったかもしれませんが、少なくとも、まさかたぶんすべてが落ちるという想定をやっぱりしていなかったということが事実だと思います。」

ナレ「北海道電力は一極集中を避けるため、石狩湾に大型の火力発電所を建設中で、来年2月からの運用を目指していた。さらに津軽海峡を通過して本州との間で電気を融通し合う連系線も60万キロワットから、90万キロワットに増強される予定で、安定供給にむけた目論見も進められていたが、」

加藤教授「おそらくですね、4月になったら新しい火力発電所も運転するし、あるいは新しい本州との連系線もできると、いうことでちょーとその谷間にですね今回のこの不幸な事故っていいまかね？がアクシデントが起こったという風に思いますね。逆にこういうことがあるんだから、先ほど言われたように一極集中させないという考え方もあったと思いますね。少なくとも4月までは少し経済性を犠牲にしても、そういうような運用をしたほうが良かったのかもしれない。」

#### 【インタビュー、黒川一哉名誉教授】

ナレ「金属の腐食研究が専門で火力発電に詳しい北海道大学名誉教授の黒川一哉氏に発電所の損傷状態について聞いた。」

黒川「中も蒸気が通っているから、内圧が高くなっていたり、地震の力と相まってここから破断しちゃったというのかなという風に見てますけど。」

ナレ「黒川氏は1, 2号機についてボイラー管の損傷だけで済んでいけば、部分的な取り換えが可能で、1か月程度での復旧は妥当だと考えている。」

黒川「これは4号機？」

発電所職員「こんな大きいものですから、破損して羽がおかしくなるとなると非常に大変です。」

ナレ「火災が起きた4号機については復旧まで時間がかかると予測されている。黒川氏は再稼働後のトラブルだけは避けなければならないと警鐘を鳴らす。」

黒川「恐怖ですね。やっぱり北海道の人間にとっては電気がこないっていうのは、冬に。これはもうね電気が来なかったら、ストーブさえつけられませんよね。完全にもう凍死してもおかしくないですよほんとに。まああんまり急いで直して動かしてということよりは、まだ本格的な冬までちょっと時間があるから、十分検査をしっかりして、再稼働していただきたいと。」

またブラックアウトと関連して泊原発については、原子力規制委員会の更田豊志委員長の「今回の地震によってその審査が影響を受けることは全くないし、今回の地震を受けて泊発電所の許可を急がなきゃならないとは毛頭考えていません。」という発言が取り上げられ、またVTRのラストには加藤政一教授の「原発の再稼働と今回の停電というのははっきり言って別問題だと思うんですね。あの一実（いちじつ）は火力だけでも十分に供給できているわけですよ。もちろん原子力が入ったことによってより安定化してコストも場合によって安くなるかもしれないんですけども、だから泊原発を動かさなきゃいけないわけではないと思います。」というコメントが取り上げられていた。

VTRを受けて、スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた

日下部「あの一先週と今週と2回震度7を記録した厚真町に入ったんですけども、今回上空から見てですね、先週地上から見た土砂崩れの現場これはほんの一部にしか過ぎないんだということを改めて実感しました。まあ山

が動くというのはこのことだったとおもえるような光景を目の当たりにして本当に言葉を失いましたね。」

日下部「一方で町の方は電気は戻ったことによってかなり落ち着きを取り戻してですね、町の人たちが協力しあって炊き出しをやってるんですけども、味噌ラーメンが増えたとかですね、メニューが増えたってみんな好評でした。都会にはない地域の結びつきの広さ、やさしさ、逞しさそんなものを感じましたね。」

膳場「電力について言いますと、今回の地震で発電所の一極集中というのがどれだけリスクが高いのかということが示されたと思います。これは東京電機大学の加藤教授によりますと北海道内で他の発電所に発電を分散させるというのは実は運用面でも決して難しいことではないんだそうです。ただそうしたリスク管理、リスク対策よりも経済性を優先させてしまっていたことなんですね。」

膳場「そして北海道以外の地域、例えば本州などでは発電所の数が多かったり、あと隣接する電力会社どうし、電気を融通しやすいためにブラックアウトのリスクというのは北海道ほど高くはないそうで、まあそう考えると今回は北海道特有の悪条件もあったといえそうです。とはいえね事前の対策をもう少し取っておけばよかったですのではないかなと感じますね。」

金平「あのね、私、実は北海道で生まれ育った身なんですけどね、その立場から言うと、北海道の今おっしゃった特有の条件ということで何しろ、広大な土地なんで、インフラの設置とか維持管理にもものすごいコストがかかるんですね。コストをなるべく切り詰めようっていう要請は場所よりも非常に強いと。言い訳にはなりませんけども北電は来年春のその石狩湾の火力発電所の運用開始に期待をかけていたというようなそういうなんかありますよね背景が。その意味では不幸なタイミングだったですね。今回のことは。」

今回の特集では放送法上の問題は特に見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

・ オスプレイ：印象操作の疑いあり

横田基地が一般公開され来月から正式配備されることとなっている機体は CV-22 オスプレイであり、それが展示されたというニュースの中で、オスプレイについて一昨年 12 月に海兵隊の MV-22 が沖縄県名護市の沿岸で大破するなど事故やトラブルも相次いでいる、と今回配備される機体とは別の機体でトラブルが相次いでいることが合わせて報じられていた。今回配備される機体 CV-22 とトラブルの相次いでいる機体 MV-22 は別の機体であるが、この 2 つの機体の相違点などについては伝えられなかった。機体の番号が類似していることから、相違点などを伝えなければ、トラブルの相次いでいる機体と今回配備される機体が同じ機体・性能であるという印象を視聴者が抱いてしまう恐れがある。

検証者所感

・ オープニング

金平キャスターが「防衛省の概算要求によればミサイル防衛システム、イージス・アショア 2 基の購入には 2352 億円かかるそうです、国民の税金です、それだけのお金があれば地震に見舞われた北海道や台風被害の関西の復興復旧がどれだけ進むのでしょうか、北海道の地震、その後は特集でお伝えします。」とコメントしていたが、他府省の概算要求を積み上げた数値は 100 兆円をこえている。そうした中でわずか 2% 程度に過ぎないイージス・アショアの購入、しかもイージス・アショアはミサイル防衛システムであり他国からのミサイル攻撃という人災への備えのためであり、かつ日本国民が広く受益できる支出であるが、それを取り上げてやり玉というのが果たして適切であったのかは疑問である。本気で財源の問題を語るのであれば、現状の各府省の概算要求で 30%

近くを占めている社会保障関係費用に切り込まなければ、ほとんど議論にならないだろう。

・オスプレイ

この番組で普段問題として指摘される箇所はオープニングでの金平キャスターの誘導的な発言や特集での公平性を欠いた恣意的な取り上げ方であることが多かったため、オープニングでも特集でもない部分で問題を指摘することになって驚きを感じている。